

<全体分析>

試験時間 120分

解答形式

記述式(数値, 文字式, 構造式)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

前年同様, 大問数は15題(正誤選択は7題, 計算問題は7題), 設問の総数は19題であり, 全体の分量もほぼ同じであった。また, 難易度も同程度であった。

出題の特徴や昨年との変更点

正解が1つまたは2つの正誤問題が出題される。解答形式はほとんどが数値記述であるが, 一部に文字式や構造式を記述する設問も含まれる。

例年, 出題分野のウェイトは理論>有機>無機の順である。

新課程を踏まえた出題

問題10は, 反応エンタルピーを用いた熱量の問題であったが, 旧課程生にも配慮した出題であった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第I問					
1	正誤選択	無機	化学	金属元素の性質と反応	やや易
2	正誤選択	理論・無機	化学基礎・化学	元素や化合物の推定	やや易
3	計算	理論	化学基礎・化学	鉛蓄電池を用いた水溶液の電気分解, 中和の量的関係	標準
4	計算	理論	化学	炭酸の電離平衡	標準
5	計算	理論	化学	NaCl型またはCsCl型の結晶構造をとるイオン結晶	標準
第II問					
6	正誤選択	理論	化学基礎・化学	物質の状態, 物質の構成	やや易
7	正誤選択	理論	化学	希薄溶液の性質	標準
8	計算	理論	化学	化学平衡	標準
9	計算	理論	化学	気液平衡, 混合気体	やや易
10	計算	理論	化学	反応エンタルピーと生成エンタルピー	標準
第III問					
11	正誤選択	有機	化学	芳香族化合物の反応と性質	標準
12	正誤選択	有機	化学	分子式 C_8H_{16} のアルケン	やや難
13	正誤選択	有機	化学	多糖類	易
14	計算	有機	化学	トリペプチド(分子量333)の分子式の決定	標準
15	記述	有機	化学	芳香族化合物の構造決定	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

全分野にわたって, 標準的な練習問題を十分に学習すること。標準的な問題を確実に得点することが重要であり, いたずらに難問の演習をしてもあまり意味がない。

過去問の研究を怠らず, 解答形式などにも慣れておくこと。